

多摩セクション



東京マガジンバンクカレッジ

2019.3
第6号

つわもの

兵の跡を歩く

～東村山を中心として～



東京都立多摩図書館

『東京マガジンバンクカレッジ』第6号の刊行にあたって

『東京マガジンバンクカレッジ』第6号は、多摩セクションのイベント「兵（つわもの）の跡を歩く～東村山を中心として～」(平成30年10月20日実施)にご参加いただいた皆様から原稿をいただき、作り上げた雑誌です。

「兵の跡を歩く～東村山を中心として～」は東京マガジンバンクカレッジ多摩セクションの講演会「教科書から辿る多摩の中世」(同日実施)に参加された方が、講演で紹介された場所を実際に歩いて、学んだ知識を体感したイベントです。しかし、それだけではありません。現地で感じ、体験したことを参加者の皆様から文章や写真で送っていただき、1冊の雑誌にまとめました。

昨年度の地域散歩「多摩を歩く～江戸から東京へ散歩～」に続く第2弾にあたる今回の地域散歩は、「多摩の中世」をテーマに、東村山に今なお残る史跡を訪れました。参加者の皆様と一緒に、多摩の歴史の奥深さと散歩の楽しさをぜひ味わってみてください。

表紙の解説

正福寺千体地藏堂

禅宗様建築の代表的遺構で、東京都に2件しかない国宝建造物の一つ
応永14(1407)年に建立



目次

■ 講師紹介	2
■ 当日の行程	6
■ 当日の地域散歩コース	8
■ 正福寺千体地藏堂	10
■ 八国山緑地	16
■ 久米川古戦場跡	24
■ 徳蔵寺板碑保存館	26
■ 鎌倉古街道	34
■ 「東京マガジンバンクカレッジパートナー」の御案内	36
■ 執筆者一覧	37
■ 編集後記	38



講師紹介

兵の跡を歩く
～東村山を中心として～
講師



せん だ なお と
仙田 直人 氏

品川女子学院 校長
(前東京都立三鷹中等教育学校 校長)

講師コメント

——「兵の跡を歩く」を振り返って、いかがでしたか？



昨年に引き続き、多摩図書館において講演会と史跡散歩を組み合わせた企画を実施させていただき、大変感謝する次第です。今年度は「中世の多摩」をテーマに、講演会では、江戸・葛西・豊島氏らの

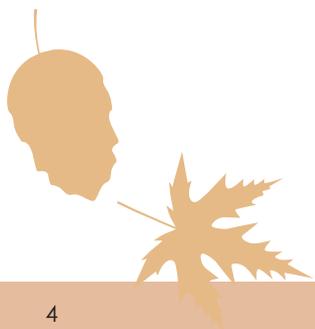
秩父一族や西党・横山党・村山党などが活躍した武蔵七党で構成される武蔵武士団について、教科書に載る歴史と実際の史跡を結びつけながら話を致しました。そして、地域散歩では、鎌倉幕府滅亡の際にこの多摩を縦断する形で戦乱を起こした新田義貞を中心に史跡を巡りました。小手指ヶ原の戦いで勝利した義貞が陣を張った八国山、鶴翼の陣をとる幕府軍に義貞が奇襲をかけた久米川の戦い、二度にわたる合戦があった分倍河原の戦いなどに関わる史跡を実際の鎌倉街道を通りながら体感しました。その際、武蔵国分寺は灰燼に帰しましたが、繊細な禅宗様式の屋根組みを持つ千体地藏堂は今でもその美しさを我々の前に見せてくれています。最後は東村山が誇る豊島屋酒造の銘酒で乾杯させて頂き、楽しく史跡散歩をすることができて、本当に有り難うございました。

——今回の地域散歩の中で、特に伝えたかった
スポットは、どこですか？



正福寺の千体地藏堂、八国山の將軍塚、
今なお残る鎌倉街道と伝えたかった場所
は数多くあります。その中で、私が特に
伝えたかったのが徳蔵寺の板碑保存館に
ある「元弘の板碑」です。この板碑には、
新田義貞に上野国から従ってきた飽間斎
藤氏の 3 名の兵が、いつどこで亡くなっ
たかが刻まれています。この板碑は、当
時の戦いの凄まじさを想像させるだけで

なく、『太平記』に書かれている 1333 年 5 月 15 日の分倍河原の戦い、
5 月 18 日の村岡の戦いがあったことを証明してくれています。私
達の身近な文化財は、歴史の語り部だけでなく、歴史の実証にも繋
がっていることを実感して頂きたかったのです。



——最後に、参加者及び読者の方へのメッセージをお願いします。

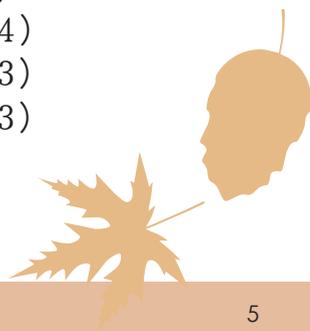
講演会だけでなく、地域散歩も参加していただき、本当に有り難うございました。雨の関係で行程が少し延びましたが、それにより豊島屋酒造も堪能できました。この散歩で中世の「兵の跡」を実感して頂けたでしょうか。昨年に続いての地域散歩でしたが、次回があるようでしたら、今度は「古代の多摩」を一緒に歩きたいです。また、お会いできることを楽しみにしております。



仙田 直人

講師著作

- 『東京グローバル散歩』（山川出版社 2016）
- 『江戸から東京へ』（東京都教育委員会 2013）
- 『東京多摩散歩 25 コース』（山川出版社 2004）
- 『東京山手散歩 25 コース』（山川出版社 2003）
- 『東京下町散歩 25 コース』（山川出版社 2003）



当日の行程 平成30年10月20日(土)



13:00 東村山駅東口（集合）
東村山駐車場の碑



（東村山ふるさと歴史館）



正福寺千体地藏堂



北山公園



（八国山たいけんの里）



八国山緑地

将軍塚

元弘青石塔婆所在跡碑





久米川古戦場跡



徳蔵寺板碑保存館（元弘の板碑）



久米川宿



豊島屋酒造



鎌倉古街道



17:00 東村山駅東口（解散）

※当日の天候の都合上、当初見学を予定していた東村山ふるさと歴史館と八国山たいけんの里に残念ながら行くことができませんでした。

この雑誌を読んで散歩に行かれる方は、ぜひお立ち寄りください。

当日の地域散歩コース



正福寺千体地藏堂



正福寺千体地藏堂



正福寺は臨済宗建長寺派に属する寺院です。境内の地藏堂は都内に2件しかない国宝建造物で、鎌倉の円覚寺舍利殿とともに禅宗様式の代表的建築物として知られています。堂内には本尊の地藏菩薩像のほか、江戸時代の地藏信仰による多くの小地藏が奉納されており、堂名の由来となっています。毎年11月3日の「地藏まつり」の際には堂内を一般公開しており、大勢の見学者で賑わいます。

東京都にある国宝建造物2件のうちの一つ。(他の一つは、港区元赤坂の旧東宮御所(迎賓館赤坂離宮))何故国宝なのかと言うと「建立は室町期だが、鎌倉時代の禅宗お堂の建築様式を保っている文化的にめずらしい建物であるため。」(仙田直人先生談)とのことで、住まいの近所に、国宝が存在していることに驚きました。

東村山市では、市をあげてこの国宝正福寺千体地藏堂を盛り上げようと、文化の日には「地藏まつり」を行っていますので、お近くに行かれた際は、是非お立ち寄りになると良いと思います。

地藏まつり(東村山市ホームページ)

https://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/tanoshimi/photo/syashin/shiki/7_9.html#cms75502



ララちゃんパパ

東村山停車場の碑

明治22(1889)年に甲武鉄道(現JR中央線)の新宿一立川間が開通した際に、国分寺と川越を結ぶ川越鉄道が計画されました。明治27(1894)年に国分寺一東村山間の工事が完成しますが、その際に柳瀬川の鉄橋工事が難航したので、やむなく現在の東村山駅北方に仮設の駅(久米川仮停車場)を置き、国分寺一久米川仮停車場間で営業を開始しました。翌明治28(1895)年、全線が開通し仮駅は撤去されることとなりましたが、鉄道の駅がこれからの地域の発展に大きく影響すると考えた東村山の住民の運動により、同年8月6日に東村山停車場がつくられました。

東村山停車場の碑は、こうした当時の人々の努力を後世に残すため、明治30(1897)年に建てられました。



川越鉄道(現西武国分寺線)の<国分寺ー川越>の仮駅として1894年に東村山駅として開業したが、<国分寺ー川越>全線開通とともに撤去される予定でした。しかし、鉄道の時代が到来するのを予見した住民運動により、停車場開設となりました。この石碑は、その尽力を記念して1897年に建立されました。15世紀、川越は太田道灌が築城し、城下町として発展し荒川に沿った新河岸川の整備により、江戸との舟運が開かれたことで武蔵国西部の集散地として繁栄しました。そのためか、川越から東京へ直通の鉄道はありませんでした。そこで甲武鉄道(1889年開業、現JR中央線)に接続し、東京へ繋ぐルートとして<国分寺ー東村山>が生まれました。鉄道黎明期より、地域を支えてきた東村山駅も電力会社との合併や武蔵野鉄道(現西武池袋線)との合併を経て西武鉄道に改称し、現在に至ります。

石碑ひとつに、幾つもの時代をくぐり抜けてきた歴史があることを思い出させてくれるものです。

Y.M



北山公園

北山公園は、狭山丘陵を背景とした自然公園で、昭和57(1982)年には「新東京百景」に選定されています。

昭和47(1972)年6月、自然を主体とした東村山市民の憩いの場として、現在の八国山緑地西側にあたる場所に「北山自然遊園」が開かれました。現在の北山公園がある場所は、当時は水田でした。不動産業者によって北山地区の水田の買収が進められますが、昭和49(1974)年に東村山市が自然環境保全のため、業者から用地を買い戻します。

昭和51(1976)年、市の都市計画公園として「北山公園」の設置が決定されます。5か年計画で造成が行われ、昭和52(1977)年には花菖蒲約8,000株が植えられました。花菖蒲は現在でも人気で、毎年「東村山菖蒲まつり」が開かれています。

この他にも春には桜やスイセン、夏にはアジサイやハス、秋には彼岸花などが楽しめ、市外からも多くの来園者が訪れます。



快晴の下、東村山駅から少し歩いて八国山緑地の手前にのんびりとした菖蒲苑がありました。心地の良い木の道を歩き、とくに季節の過ぎた草花と小さな子供が遊び喜んでいる声もありました。わりと大きな公園です。

東京ではたまに見る鷺もいて、思わず写真を取りました。

西武園線が八国山緑地との間に走っており、八国山緑地に入るためには少し歩いて小学校の端まで行かなければ踏切がありません。

よした



八国山緑地



八国山緑地



狭山丘陵の東端に位置する八国山緑地は、上野、下野、常陸、安房、相模、駿河、信濃、甲斐の八か国の山々が見渡せることからその名がついた緑地で、アニメ映画「となりのトトロ」に登場する七国山のモデルになったといわれています。

八国山の尾根にある将軍塚は、新田義貞が鎌倉攻めの際の久米川の合戦で陣を張り、指揮を執った所とされています。

将軍塚のそばには「元弘青石塔婆所在跡碑」があります。碑のあるところは、現在徳蔵寺板碑保存館に保存されている国指定重要文化財「元弘の板碑」が立っていた場所とされています。

中世の兵たちの舞台を彷彿とさせる東村山の地、八国山が今も静かに横たわっています。時がとまったかのような自然豊かな小高い尾根を歩き、木々の中を心地よくとおる涼風をうけ、鳥のさえずりに心洗われ、歴史ロマンを駆り立てる場所が目の前に広がります。兵たちがみた光景、その足跡を静かに思いめぐらす回廊のクライマックスは将軍塚です。塚の記念碑に手をあわせ、先祖の方々が過ごした世を忍び、昭和・平成の世に生を受けた命に改めて感謝する気持ちが湧いてきます。是非、お越しく下さいませ。

K.T

八国山緑地は、私にとって、「野山を歩きたいな～」と思い立ったら直ぐ行ける都立公園。八国山は、狭山丘陵(約50万年前頃の古い多摩川などの河川による侵食によって出来た地塁状の丘陵)の東端に在る、標高89.4メートルの山です。なだらかな尾根道を、雑木林の柔らかな陽光を浴び、谷戸の雅趣に富む景色を感じつつ歩けば、大地の変遷、そこここに地下水が湧き出る台地のキワで暮らした、行き交った人びと、オオカミなど、古のものごとあれやこれや、想像が膨らんでくるもの。国分寺・名水と歴史的景観を守る会の一員としては、7世紀後半から10世紀頃まで使用され、幅12メートルもあったらしい東山道武蔵路に纏わる謎解きの路へも誘いたいところ。

C.T



八国山将軍塚に写真の石碑が立っています。徳蔵寺に保存されている、あの元弘の板碑(国重要文化財)が、こんなところに在ったのかと興味ひとしおでした。将軍塚そのものの碑は奥まったところにあります。この碑は山道に面しています。徳蔵寺の保存館で、元弘の板碑の現物を見る前にお立ち寄りをお勧めします。徳蔵寺から15分ばかりの距離です。

Y.H



西武東村山駅前出発、梅雨時は色とりどりの花菖蒲の咲く北山公園を通り、西武線を横切り、八国山緑地に入る。「ひだまり広場」、「ほっこり広場」と地図にある。今日のような気持ちの良い秋日和にふさわしい呼び名だ。

八国山は標高89.4m。「八国の遠嶂(えんしょう)を一望に覧(み)るゆえにこの名あり。」なるほど。今度ゆっくり眺めに来たい。

元弘3(1333)年5月12日、新田義貞はここで鎌倉、北条方と対陣した。5月22日鎌倉を攻め落とす。

豊島屋酒造で、どしゃぶりの雨音、雷の音を伴奏に銘酒を味わったのも思い出に残る。

藤田 武司



八国山緑地を麓の北山公園から西武西武園線の踏切を越えて歩いて行くと、なだらかな登り道の先に、クヌギやコナラなどの雑木林が現れます。暫く尾根道を歩けば、所沢の松が丘住宅地が左手の木の葉越しに見えてきます。ここでは東京都と埼玉県の境に位置する丘陵で、アニメ「となりのトトロ」に登場する七国山のモデルの地とされています。



その先のこんもりとした小山が將軍塚で、新田義貞が鎌倉攻めの際に陣を敷き、久米川の戦いの指揮を執ったところと伝えられています。今は鬱蒼と繁った樹木で周囲を見渡すことはできませんが、当時は遮蔽物を伐採し眼下の白熱した戦いの戦況を見ながら、軍配を振るったのではないのでしょうか。

また、將軍塚の小山の裾野には元弘青石塔婆所在跡の碑が建っています。現物は近くの徳蔵寺板碑保存館に展示されていますので、足を伸ばしてみたら如何でしょう。



かずさん

下宅部遺跡



下宅部遺跡は、縄文時代から奈良・平安時代を中心とする低湿地遺跡で、平成8(1996)年の都営住宅建替え工事を機に発見されました。豊富な湧水のおかげで、通常の遺跡では残りづらい木の道具や水辺の施設、動物の骨などが数多く残されていたことから、当時の生活や自然環境を知る貴重な手がかりとなっています。

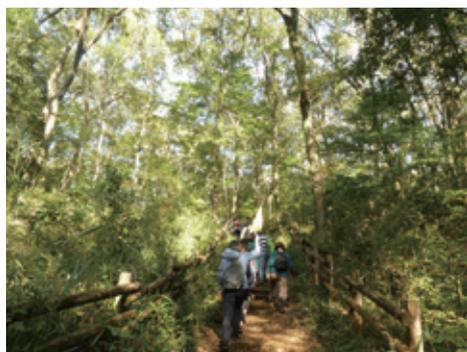
この遺跡を未来に残していくため、遺跡の最重要地点約3000平方メートルを、地下に遺跡が眠ったままの状態「埋没保存」することとなり、「下宅部遺跡はっけんのもり」が整備されました。

今回の地域散歩では訪問できなかった「八国山たいけんの里」では、下宅部遺跡の貴重な出土資料も収蔵・展示しています。また、「下宅部遺跡はっけんのもり」には遺跡の一部が復元されていますので、今回の地域散歩のコースを辿る際にはぜひお立ち寄りください。



今回の地域散歩では、時間の制約上、割愛されてしまいましたが、八国山たいけんの里には、全国的に有名な下宅部遺跡の出土品が展示されています。縄文時代後晩期を中心に中世までの資料があります。特に縄文時代の漆に関する事がこの資料から発見されたという特徴をもつ遺跡です。この遺跡に関する講座が東村山ふるさと歴史館や八国山たいけんの里で数多く実施されています。興味のある方は、是非ご参加してみてください。

Miko



久米川古戦場跡



久米川古戦場跡



狭山丘陵東麓(現在の八国山緑地)から柳瀬川にかけての一带は、鎌倉時代には鎌倉から上野国に向かう鎌倉街道が南北に縦断していました。戦乱の時代になると、入間川と多摩川の間の中道の軍事的な拠点として、さまざまな合戦の舞台となりました。特に元弘3(1333)年に新田義貞が鎌倉幕府倒幕のために挙兵し戦った久米川の合戦は有名で、義貞はこの戦いで勝利をおさめた数日後に、鎌倉幕府を倒しました。

今回の地域散歩のタイトルから、松尾芭蕉の俳句「夏草や兵どもが夢の跡」を連想しました。平泉は交通の要衝で、近くに後三年の役の衣川古戦場があり、源頼朝の奥州征伐の舞台ともなったところだ



です。軍事上の要衝で、合戦が起きることは昔から知られています。中世において北多摩地域での交通の要衝は東村山駅周辺でした。東山道武蔵路、鎌倉古道(上ツ道)が走っており、鎌倉末期から室町中期にかけて合戦が起こったのも頷けます。現在、久米川古戦場は東京郊外の住宅地となっています。

上野 次郎

徳蔵寺板碑保存館



徳蔵寺板碑保存館



徳蔵寺は永禄3(1560)年に創立、元和年中(1615～1623)に開山したと伝えられている、臨済宗大徳寺派に属する寺院です。昭和43(1968)年に板碑保存館が完成し、多くの板碑、石器、土器等が保管されています。

中でも、新田義貞が鎌倉を攻める際に府中や相州村岡で戦死した飽間齋藤氏の三戦士を供養した「元弘三年齋藤盛貞等戦死供養碑」(元弘の板碑)は、国の重要文化財に指定されています。元弘の板碑はかつて八国山の中腹にあり、永春庵が守っていましたが、のちに庵と板碑が徳蔵寺に移されてきました。

他にも、2基1組で延文4(1359)年に造られた男女2人の生前供養の碑である比翼碑、約1200年前に造られたとされるつぼ型蔵骨器の獣脚付蔵骨器などが板碑保存館に保管されています。

この保存館に収集され展示されている多数の板碑を見ると、実はとても切ない気持ちになりました。板碑は戦で命を落とした無名兵士の供養塔です。各地で「古戦場」と刻まれた大きな石碑を見て戦を実感できなくても、戦死者の氏名、命日、戦のピンポイントの場所など具体的な情報が含まれている板碑からは時代がむくむくと蘇り、個々の命の重みを感じます。単なる固有名詞であった歴史上の戦いも、戦場には必ず僧侶が随行し、死者を弔い、記録に残し、家族に悲報を伝えたことを知り、また縁のある有志が板碑を遺して、戦没地まで運び、備えて供養したと聞くと、今日まで連綿と続く人の営みの普遍性が思われて、自然と合掌する気持ちになりました。

OZ

東村山に中世の歴史・遺跡が多く有ることに感銘を受けました。特に徳蔵寺の板碑保存館に多数収集されていた中世の板碑、中でも国の重要文化財の「元弘の板碑」が安置されていたこと、素晴らしいと感じました。

「元弘の板碑」は、「太平記」には明確な裏付けのない伝承レベルの事象が記載されていることが多いと言われておりますが、分倍河原の合戦、相州村岡の合戦が実際に行われたことを示す資料として価値があると感じました。

H.I

ここでは、国の重要文化財「元弘の碑」をはじめ数多くの板碑を保存・公開しています。板碑とは、亡くなった人の供養や自分自身の死後の幸福を祈願するために、おもに中世の関東地方で作られていたという石碑のこと。ここ徳蔵寺の収蔵品の中でも、元弘の碑は、「太平記」に書かれた新田義貞と鎌倉幕府との合戦が史実であることを裏付ける貴重な史料として、よく知られているそうです。静かな展示室には、この碑のほかにも壁一面に大小さまざまな板碑が多数陳列されています。すこし青味がかかった石の板に力強い線で綺麗に彫り込まれた大きな梵字が印象的です。中には、釘で引っ搔いたような拙い文字が切々と刻まれた小さな板碑や、夫婦で建てたとも言われる一対の碑なども。ひとつひとつを見ていると、中世の人々の思いが伝わってくるようです。

A.S

この保存館には、国指定重要文化財の「元弘の板碑」が展示されています。板碑とは、死者の回向のための板状の供養塔です。元弘3(1333)年、新田義貞は討幕のため鎌倉街道を南下しました。途中の5月11日分倍河原の合戦、18日相州村岡の合戦での戦死者の名前がこの板碑には刻んであり、『太平記』の記述を裏付ける貴重な史料となっています。緑泥片岩を板状に加工し、高さが147cmもあります。当時合戦には、戦死者の回向のため、時宗の僧が随行していましたが、陣僧はこの板碑をどのようにして運んだのでしょうか。

保存館には、この他にもたくさんの板碑や土器石器などが展示されています。

Y.K



八国山の東京都側の山麓は、自然がよく保存され、柿の実の熟れる家々の庭や、トラクターの作業する畑など、都内とは思えぬほど、のどかな山里の風情である。さらに緩やかな登山道を登り始めると、アニメ映画の舞台のモデルとなった、秋の雑木林が美しく目に入る。しかし山頂の將軍塚から、埼玉県側山麓の久米川古戦場に降りると、気分は少し違って来る。

今から7百年ほど前に、まさにこの地で繰り広げられた戦闘を思い、少し背中が寒くなる。

さらに進んで、徳蔵寺の板碑保存館に着く。板碑に刻まれた戦死者の没年は、なんと若いのだろう！23歳、26歳、35歳。これら三名の他に、もっと身分の低い、忘れ去られた戦死者が大勢いたはず。歴史の中の絶え間ない戦争に、「ヒトとは何か」と思う。

野村 訓子



鎌倉幕府討幕のため、上野国から鎌倉に向け兵を進めてきた新田義貞が「八国山將軍塚」にて陣を張り、「久米川古戦場跡」で幕府方の軍勢と戦に及んだもの。結果は、奇襲により新田義貞方の勝利。その時戦士した兵の菩薩を弔うため造立した供養碑が「元弘の板碑」で国指定の重要文化財。

地元多摩で、日本の歴史の1つのエポックとも言えそうな事柄が起こっていたことが、リアルに想像できてとても感慨深い。また、兵隊以外にも陣僧や彫師等も従軍していた点も、いままでほとんど知ることがなく、興味深い。あんな重い石の板版を修業の一環とはいえ運搬することは、これはこれでさぞ大変なことであっただろう。

一方、記録に残すことは、とても重要なことは昔も現代も変わらないものと改めて認識させられたような気がした。

N.S

校倉(あぜくら)造りを模したこの保存館には、多くの板碑や資料が展示されています。その中でひときわ目立つのが重要文化財でもあるこの元弘の板碑です。板碑は新田義貞が鎌倉攻めの時に戦死した武将3名を供養するために建てたもので、板碑の表記が14世紀に書かれた太平記の内容と一致するため、太平記が史実であることを証明するものとしても貴重なものです。また新田義貞が、鎌倉街道に沿って小手指→久米川→分倍河原と闘い続け、ついには鎌倉政府を滅ぼした史跡や資料とあいまって、教科書に書かれた歴史の一端を垣間見ることのできる貴重な資料です。

W.M



豊島屋酒造



豊島屋は東京最古の酒舗で、慶長元(1596)年に初代豊島屋十右衛門が酒屋兼居酒屋の商いを始めたのが起源とされています。特に白酒は江戸の人々にたいへん人気で、当時のようすは『江戸名所図会』巻之一にも掲載されています(「鎌倉町 豊島屋

酒店 白酒を商ふ図)。「例年二月の末鎌倉町豊島屋の酒店に於て雛祭の白酒を商ふ 是を求めんとて遠近の輩黎明より肆前に市をなして賑へり」との記述があり、繁盛ぶりが見て取れます。事業拡大とともに、豊島屋は幕府御用達となります。

明治時代中頃、豊島屋は清酒の醸造業を自ら手掛けるようになります。当初は兵庫の灘にあった蔵を、昭和初期に東村山市に移設します。神田鎌倉河岸にあった本店も、大正12(1923)年の関東大震災や昭和20(1945)年の東京大空襲などを経て、現在の神田猿樂町に再建しました。

豊島屋酒造といえば、明治天皇の銀婚式をお祝いする願いを込めて命名された「金婚」、明治神宮、神田明神の御神酒として納められている唯一のお酒「金婚正宗」が有名です。樽酒を結婚式に用いる習慣も豊島屋が最初といわれています。



今回は2度目の訪問でしたが、多摩地域で現存する貴重な酒造で、前回の説明や今回の仙田先生のお話にもあったように、お酒よりもみりんや酒粕の売上げの方が多いとのことでした。今回は今回の図書館の職員さんのように事務局として引率する立場であったので、試飲できませんでしたが、今回はいただくことができました。今回のテーマからははずれていますが、コースの最後を締め括る楽しい企画でした。そして最後にまさかのゲリラ豪雨により雨宿りする中、試飲したお酒とみりんをお土産に調達して、皆さんとともに駅に向かいました。

K.U



鎌倉古街道



鎌倉古街道



鎌倉幕府は、重要基盤である関東地方を統治するため、鎌倉を起点として、四方の街道を整備しました。東村山には、市を南北に貫いて、上野国へ向かう上ツ道という道が通り、東山道にほぼ並行して走っていたと推定されています。

日蓮上人が佐渡流刑の際に立ち寄ったとされる久米川宿、新田義貞と幕府軍の合戦の舞台となった久米川古戦場などが沿道にあったとされ、歴史において重要な役割を果たした場所の一つです。

私は、午前の講義にも出てきた“武蔵武士の鑑”と言われる畠山重忠に興味をもっている。武蔵国分尼寺跡の国鐘公園にある“伝鎌倉街道”を北上し、西国分寺駅の北に行くと東福寺がある。そこに、重忠と夙妻太夫の傾城由来碑があり、姿見の池には一葉松伝説の解説がある。その昔、重忠がこの鎌倉古道上道を通して、埼玉の嵐山町菅谷と鎌倉を往復していたと思うと、歴史の醍醐味を感じる。さらに北上すると、午後に散策した東村山を通して所沢へと続く。おそらく、重忠も八国山に登って、鎌倉や京都、さらに遠く九州の薩摩島津家へと思いを馳せたのではないだろうか。そして、最期に、終焉の地である横浜の鶴ヶ峰を。

タマちゃん



「東京マガジンバンクカレッジパートナー」の御案内

【東京マガジンバンクカレッジ】

「東京マガジンバンクカレッジ」は、「雑誌の魅力を知る・創る・伝える」というコンセプトのもと、「雑誌総合」「鉄道」「多摩」の3つのセクションがそれぞれ又は合同でワークショップ、セミナー等を継続的に行い、雑誌を仲立ちとする学びと交流の拠点を作り上げることを目指す活動です。



雑誌をつくるワークショップ

【東京マガジンバンクカレッジパートナー】

東京マガジンバンクカレッジは、参加していただくだけでなく、図書館職員と協力してイベントを作り上げていく方を求めています。その役割を担うのがパートナーです。

パートナーに登録していただくと、カレッジのイベントや雑誌に関する情報をメールマガジンでお知らせします。イベントの申込みはどなたでもできますが、応募者が定員を超えて抽選になったとき、一定の範囲でパートナーを優先いたします。



パートナーによるマガジントーク

パートナーの方には、講演会におけるマガジントーク、企画展示で展示するおすすめ雑誌やメッセージをお願いすることもあります。そして、将来的にはパートナー自身が主体的にイベントの企画立案から実施までを行うことを目指しています。

*パートナーには団体パートナーと個人パートナーがありますが、ここでは個人パートナーについて説明しています。

【パートナーになるには？】

パートナーになってみようと思われる方は、「パートナー申請書送付希望」とお書きいただき、下記宛メールをお送りください。折り返し申請書フォームをお送りします。申請書に必要な事項を御記入いただき再度送信してください。

その後、登録を承認した方にはメールで通知します。通知を受け取られたら、パートナーとしての活動が始まります！

なお、メールアドレスをお持ちでない方は、お電話で御相談ください。

是非パートナーに御登録いただき、一緒に東京マガジンバンクカレッジを作り上げていきましょう。

連絡先 Email : S9000044@section.metro.tokyo.jp

電話 : 042-359-4020

執筆者一覧

A.S	Y.H
C.T	Y.K
H.I	Y.M
K.T	上野 次郎
K.U	かずさん
Miko	タマちゃん
N.S	野村 訓子
OZ	藤田 武司
W.M	よした
	ララちゃんパパ



編集後記

今回の散歩に参加された方の記事はいかがでしたでしょうか。私たちの身近にある史跡から、中世の多摩を体験することができたかと思います。今回の散歩を通じて、多摩の新しい魅力を発見していただければ幸いです。

講演会及び地域散歩の計画から案内までお務めくださった仙田先生に、心より御礼申し上げます。そして、講演会に御参加くださった皆様、今回の散歩に参加し原稿をお書き下さった皆様、この雑誌の発行に関係した、すべての方に御礼申し上げます。

それでは、次の東京マガジンバンクカレッジのイベントでまた皆様にお会いできることを楽しみにしております。

東京マガジンバンクカレッジ 第6号

平成31年3月発行

編集 東京マガジンバンクカレッジ事務局

発行 東京都立多摩図書館

〒185-8520 東京都国分寺市泉町二丁目2番26号

電話 042-359-4020

ホームページ <https://www.library.metro.tokyo.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



東京都立多摩図書館

